

2023年度後期		知の市場(シラバス)							新規				
科目No.		関連講座445b		科目名		にのいの科学と社会経済産業論(2)		副題	にのいと香りの化学を深め、現代経済社会における香料産業の実情を知り、将来を展望する				
連携機関名		化学生物総合管理学会		水準	基礎	教室定員	0	配信定員	30	講義日時	第4水曜日19:00:00～21:00	拠点 (開講機関)	リモート・東京調布 (知の市場)
科目概要(300字)		にのい物質を素材にして化学の基礎を解説し、香料業界で使われているさまざまな技術について紹介する。まず、調合香料の原材料である天然香料と合成香料について解説する。天然香料では、その採取方法、分離技術を解説し、合成香料では主なものとその製法を紹介する。つぎに、にのい物質の化学構造を解説し、同時に前期で紹介した「にのいを感じる仕組み」との関連を説明する。また、個々の物質の名前はどのように付けられてきたかを解説するとともに、にのいの表現方法について考える。さらに、現代の香料会社がさまざまな技術を駆使して香料を創っている姿を紹介し、今後の香料業界を展望する。											
科目構成		No.	講義		講義概要(150字以内)				講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
にのいの化学	1		香料素材としての天然香料・合成香料		調合香料の素材として使われている天然香料と合成香料について、その種類や特徴などを解説する。バラやジャスミンなどの花には、さまざまな成分が含まれていて、そこから香り成分を取り出したものが天然香料である。特に、植物由来の天然香料について、その採油方法について詳しく解説する。				2023/10/25	Zoomを活用してリモート開催	藤田豊	藤田豊	化学生物総合管理学会 会員
	2		にのい物質の化学構造		嗅覚細胞が匂い物質を捉えることにより、ヒトは匂いを感じる。その匂い物質の化学構造を探りながら、有機化学とは何かを説明する。さらに、混合物と化合物の違い、水という物質の不思議な挙動などにも触れる。				2023/11/22				
	3		にのいの表現とにのい物質の名前		色には虹の7色をはじめ多くの表現方法がある。では、にのい・香りについてはどうだろう。自ら体験したにのいを他人にうまく伝えられるだろうか。にのいの表現について考察したあと、にのい物質の名前について考える。天然香料を成分ごとに分けたものが単離香料である。必要不可欠な個々の成分の名前の由来について紹介する。				2023/12/27				
香料産業の現状および将来	4		香料の創作とその担い手		香料を創る技術者は調香師と呼ばれる。化粧品の香りを創っているのがパーヒューマーで、加工食品の香りを創っているのがフレーバリストである。彼らが、香料会社の中でどのような訓練を受けているのか、そしてどのように香料を創作しているのか、また、調香はどこまで機械化が可能なかなどを検証しつつ、それらの将来を展望する。				2024/1/24				
	5		現代香料産業を支える技術		香料会社で香料を創っているのは調香師だが、香料作りには他にも多くの技術者が関わっている。分離抽出・分析同定・合成など比較的基礎的な研究開発を行う人たち、乳化・粉末化といった製剤化技術の担当者たち、官能評価技術者など、さまざまである。現在の香料産業を支える技術や技術者について解説しつつ、その将来を展望する。				2024/2/28				
	6		現代香料産業の実情と将来		世界の香料業界について、その規模、主要企業などを、日本の香料会社も含めて紹介する。また、近年見かける「香料不使用」という表示の背景を考察するほか、にのいと香りそして香料と香料産業を取り巻く幅広い変化を考察し、世界と日本の香料産業の将来について展望する。				2024/3/27				